

# 令和 5 年度 事業計画書

公益財団法人富山市ファミリーパーク公社

# 令和5年度 公益財団法人富山市ファミリーパーク公社事業計画（案）

自 令和5年4月 1日  
至 令和6年3月 31日

## I 基本方針

「人を元気に、森を元気に、いのちを元気に、地域を元気に」をコンセプトに、豊かな里山の自然の中で、飼育動物の動物福祉の向上を図るとともに、日本産動物の飼育展示や希少野生動物の保護増殖、在来家畜の保存に努め、多様な生物の世界やいのちのつながりを伝える。また、園内の自然を活用・整備しながら里山の貴重な動物や自然の保全と普及啓発に努め、市民とともに新しい里山づくりに取り組む。

さらに、近隣の地域住民や各施設・団体と連携して当園を拠点に呉羽丘陵を活用し、呉羽丘陵一帯で自然を楽しみながら健康増進や癒しの場となる事業を充実させ、呉羽丘陵にある里山の魅力を園内外に向け情報発信しながら、地域に根差した園づくりを進めていく。

また、県内外からの利用者に向けて誘客事業の充実を図り新規顧客の獲得と利用者の拡大を図る。

## II 事業計画

### 1 SDGs に呼応した事業の推進

ファミリーパークが飼育展示事業や希少動物を中心とした繁殖研究事業、教育普及事業、里山保全管理・整備研究事業、里山活用事業などは、SDGs の目的のひとつである「15. 陸の豊かさを守ろう」や「4. 質の高い教育をみんなに」に合致している。

令和5年度もこれらの事業を引き続き推進することで、ファミリーパークに来園する多くの方々にSDGsについて考える機会を体験的に提供する。

### 2 新整備計画の見直しおよび老朽化対策を見据えた事業

令和4年度にファミリーパーク来園者を対象とした利用者アンケート調査の結果や社会情勢の変化に対応するために、富山市が策定したファミリーパーク新整備計画（平成23年度策定）や施設の老朽化対策について富山市と共に検討する。

### 3 富山市ファミリーパーク開園40周年記念事業

昭和59年に開園した富山市ファミリーパークは、令和6年に開園40周年を迎えることから、40周年記念事業の企画等を提案し、富山市と協議を進める。

また、令和 5 年度は開園 40 周年記念事業としてライチョウを題材としたフォトコンテストの作品募集を行い、開園 40 周年に向けた気運を高める。

#### 4 ライチョウ基金事業

- (1) 基金を有効に活用し、公益社団法人日本動物園水族館協会（以下、JAZA）と連携し進めている国のライチョウ保護増殖事業における飼育繁殖技術の確立や人材育成を支援するとともに、多くの人に、ライチョウの現状や保全の必要性を伝える普及啓発事業を推進する。
- (2) 基金への寄附を引き続き、広く市民・県民・国民に募っていく。また、公社の自主事業で売り上げの一部が寄付されるオリジナル商品の開発に取り組んでいく。

※令和 5 年度ライチョウ基金事業計画（案）：別添参考資料

#### 5 希少動物保全基金事業

- (1) 基金を有効に活用し、生物多様性の保全に寄与することを目的に希少動物の飼育・繁殖技術の確立に向けた技術開発および人材育成、普及啓発に取り組む。

令和 4 年度に引き続き、国際希少野生動物種であるヨウムの繁殖プロジェクトを推進するとともに、令和 5 年度は園内に生息する絶滅危惧種ホクリクサンショウウオの生息域内保全および生息域外保全事業を推進する。

- (2) 基金の目的である生物多様性の保全の重要性を市民・県民に広く周知し、基金への寄附を募っていく。また、公社の自主事業で売り上げの一部が基金に寄付されるオリジナル商品の開発に取り組んでいく。

※令和 5 年度富山市ファミリーパーク公社希少動物保全基金事業計画（案）および事業予算（案）：別添資料 1

#### 6 公益目的事業

##### (1) 施設管理事業

施設の安全性を確保し、利便性を向上することで、入園者が安心して快適に過ごせる施設を目指す。

###### ①維持管理

快適な園内環境を来園者に提供するために、建物および設備等施設の維

持管理を行う。

②利便性の向上と安全管理

利便性向上に資する観覧環境の改善や、老朽化に伴う改修を計画的に行うことで入園者の安全性の確保を図る。

③入園料の徴収

入園料の徴収受託事務を行う。

また、入園料の支払をクレジットカードや電子マネー等による決済を可能とすることにより、利便性の向上を図る。

④感染症対策

新型コロナウイルス、豚熱、鳥インフルエンザ等の社会的に影響が大きい感染症について、入園者・動物・職員に対する衛生管理を徹底することにより感染拡大防止に努める。

⑤団体利用者誘致の推進

コロナ禍で減少した学校等の団体利用者の増加を図るため、県内小中学校への誘致活動を実施する。

## (2) 動物管理事業

いのちの大切さや、人と動物のかかわり、生物の多様性を伝えることを目的に、動物の展示および教育啓発に努める。

また、動物展示や解説を通して、その動物の生活や特性、現状を伝え、希少動物とそれを取り巻く環境保全の必要性を伝える。

昨年オープンした熱帯鳥類館「バードピア」で展示しているヨウムをはじめとした希少動物の繁殖研究事業、教育普及事業の推進に努める。

① 飼育展示事業

各々の動物の特徴的な形態や行動の展示を充実させることで、生物の多様性について伝えるとともに、親子の展示などを通して、いのちの大切さを伝える。また、日本産の動物の繁殖による展示を充実させ、野生動物と人と里山環境との関係について伝える。さらに、日本在来家畜の展示を通して、日本人との関わりや文化を伝え、その普及と保存に努める。

これらの展示を充実・発展させるために、コレクションプラン（※別添資料2）に基づいた動物の収集を進める。

また、鳥インフルエンザなどの感染症対策として、飼育動物の安全を担保しながら展示できる施設整備の方向性について市と共に検討していく。

② 繁殖研究事業

コレクションプランに基づいて動物種ごとの繁殖に取り組む。特に国内外の希少野生動物について、JAZA（他の国内飼育園館）や関係機関等と連携して、飼育繁殖技術の確立を目指し繁殖研究に取り組み、保護増殖に努

める。また、飼育繁殖技術の継承を図るため、人材育成とその組織作りに取り組む。

### ③ 教育普及事業

幅広い年齢層を対象とし、動物を活用した各種ガイドや体験プログラムを実施し、生物の多様性や人と動物のかかわり、いのちの大切さについて伝える。

季節に応じた催物を企画・実施し、さまざまな視点からの普及啓発に努める。また、実習や研修を受け入れ、動物を通した教育活動に取り組む。

さらに飼育展示事業および繁殖研究事業、教育普及事業などにかかる調査研究によって得られた成果や情報を、展示や各種研究会、講演、出版などを通して、市民に提供する。

### ④ ライチョウ保護増殖事業

ライチョウ基金を活用し、環境省のライチョウ保護増殖事業計画およびJAZA のライチョウ生息域外保全計画に基づき、野生復帰を想定した自然繁殖技術の確立を目指し、科学的および技術的な知見の蓄積に努める。また、環境省が行っている中央アルプスにおけるライチョウ野生復帰事業に引き続き他園と連携し協力していく。

さらに、ライチョウの展示やシンポジウムの開催を通して、その生息状況や保全の大切さを伝える普及啓発する。

### ⑤ ヨウム繁殖プロジェクト事業

希少動物保全基金を活用し、野生復帰を想定したヨウムの繁殖技術の確立に向けて、大学や団体と共同で繁殖生理や飼育管理方法の科学的および技術的な知見の蓄積に努める。

また、一般向けの催物や大人向けの講演会を通して、その生息状況や保全の取り組みについて普及啓発に努める。

### ⑥ ホクリクサンショウウオ域外保全事業

絶滅危惧種ホクリクサンショウウオの飼育・繁殖に取り組み、園内の保全を推進するための科学的および技術的な知見の蓄積に努めるとともに、「悠久の森 ホクリクサンショウウオ保全プロジェクト」との連携しながら、吳羽丘陵全体における保全について検討する。

また、生体展示や催物を通して、ホクリクサンショウウオの生息環境の現状を伝え、里山環境の保全の大切さについて普及啓発に努める。

### ⑦ 在来馬保全活用事業

木曽馬や野間馬、対州馬等の在来馬の展示や乗馬体験事業の充実を図り、日本人と在来馬の関わりや文化の普及啓発を図る。また、木曽馬については、「木曽馬の里」(一般財団法人開田高原振興公社)と連携して種付けをおこない、令和5年度の繁殖を目指し、在来馬の保存を図る。

### ⑧ 動物福祉の推進

世界的に動物園における動物の福祉向上が課題となっている。このことから、当園においても動物の種類や個体ごとに適した飼育環境を整え、動物福祉の向上を図る。令和5年度には自園で自己評価を行い、その結果を検証し、改善に取り組みながら、継続的な動物福祉の向上に努める。

### (3) 地域事業

地域の施設や学校、団体・住民と連携し、自然や文化、健康などをテーマとし、当園を拠点とした呉羽丘陵で催物を実施し、地域の魅力を伝えることで、幅広い年齢層の市民の誘致を図る。また、「呉羽丘陵フットパス」を活用し、里山の自然に親しむ企画を実施することで、ファミリーパークを呉羽丘陵の拠点施設として機能を充実させるとともに、「富山市 SDGs 未来都市計画」における市民の歩くライフスタイルへの転換の推進に協力する。

#### ① 悅久の森事業

悠久の森実行委員会に参画し、呉羽丘陵を広く活用した事業の推進に努める。また、主要事業であるフェスタについては、「ウィズコロナ」下で事業の継続および拡充に向け、企画・立案に寄与する。

連携事業の「悠久の森 ホクリクサンショウウオ保全プロジェクト」では、絶滅危惧種ホクリクサンショウウオの生息地の環境整備活動や小学校への出前授業により現状や保全の必要性を伝え、「ホクリクサンショウウオ域外保全事業」と連携しながら呉羽丘陵に生息するホクリクサンショウウオを地域で守っていく仕組みづくりに努める。

また、令和4年度に引き続き、連携事業「呉羽丘陵散策」を引き続き実施し、呉羽丘陵の動植物や歴史などの魅力を伝え、多くの市民・県民による呉羽丘陵の活用を促す。

#### ② 輝け！いのちの集い事業

輝けいのち協議会と連携し、いのちの尊さを普及啓発する事業「輝け！いのちの集い」を実施する。また、小中学校、高校などの児童・生徒・PTA 関係者とも連携を深め、さらなる発展を図る。さらに、「いのち」をテーマとした講演会を開催し、命について考える機会を広く設ける。

#### ③ 地域連携事業

富山市や県内の学校、団体・企業などと連携を図り、自然、健康、スポーツ、文化等をテーマとして、ファミリーパークや呉羽丘陵を活用した催物を実施する。また、その連携を強化し、連携のネットワークを構築することで、ファミリーパークの呉羽丘陵における拠点としての役割の充実を図る。

#### ④ 活性化事業

ゴールデンウィークやシルバーウィークなど季節に応じた催物を企画・

実施することで来園者の誘致を図る。夏と秋には開園時間を延長した日を設け、夜の動物園や自然散策を楽しむ機会を提供する。

また、動物友の会では、動物や自然とのふれあいなどのさまざまな企画を通して、ファミリーパークの魅力の普及啓発に努め、世代を超えた利用の促進に努める。

さらに、障害をもつ児童を対象としたプログラムを実施し、動物園の社会的役割の充実を図る。

#### ⑤ 広報・広告事業

ホームページ、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）等を活用してファミリーパークからの様々な情報提供の充実に努める。

### （4）里山事業

園内の里山に生息する野生動植物に関する調査研究活動や整備を実施しながら、自然環境の保全を図り、市民が園内および呉羽丘陵で里山の自然を楽しみながら知ることができる事業を実施する。

#### ① 里山保全管理・整備研究事業

悠久の森実行委員や市民いきものメイト、呉羽丘陵にホタルを呼ぶ会などの学校や施設、団体と連携し、園内の自然の保全や、ホクリクサンショウウオやホタルの生息域内保全を推進する。

#### ② 里山活用事業

展示や解説を通してムササビや野鳥など園内の野生動物や自然についての普及啓発を推進する。また、ホタルの発生時期に合わせて夜間開園日を設け、ホタルの鑑賞や夜の自然散策を楽しむ機会を提供する。

また、里山の野生動物や自然についての体験展示やガイドを拡充させ、呉羽丘陵の自然を楽しみながら里山利用の面白さを実感してもらう。

さらに、実習や研修では、動物展示に加えて園内の自然を活用することで、質の高い事業展開を図る。

## 7 収益事業等

### （1）遊園地維持等受託事業

遊具の点検・整備を行い、利用者が安心・安全に利用できる運行に努め楽しく利用できるように努める。

#### ① 維持管理

各種法定検査等を実施しながら、運行の安全性の維持を図る。老朽化が進んでいることから、今後の運営方針について富山市と協議する。

② 安全管理

施設の老朽化に伴う安全対策の徹底を図る。

③ 遊具使用料の徴収

遊具使用料の徴収受託事務を行う。

(2) 自主事業

入園者の要望や動向を見ながら経営形態の見直しや施設の利便性の向上を図る。また、繁忙日やイベント開催日には、移動販売車の出店や臨時ショップの営業など食の賑わいを創出する事業を推進する。

① 売店・食堂事業

オリジナルメニューや商品の開発を行い、売上の一部をライチョウ基金や希少動物保全基金に繰り入れる仕組みを拡充する。また、季節やイベントと連携した企画を立案し販売促進に努める。

商品の支払をクレジットカードや電子マネー等による決済を可能とすることにより、利便性の向上を図る。

② ホースライド事業

在来馬を中心とした乗馬、障害者乗馬会などを実施し、エサやり体験などを行う。

8 法人会計

(1) 公益財団法人として適正な運営に努める。

(2) 公社の財務会計及び予算・決算等の経理を行う。

(3) 指定管理者としての指定申請事項に基づく法令等の遵守。

9 ファミリーパーク施設使用料徴収受託事業

内 訳	
有料エリア	234,300人 (有料入園者数69,050人) (無料入園者数165,250人)
無料エリア	95,700人
総入園者数	330,000人
入園料	37,660千円
	個人大人 500円×57,000人 28,500,000円
	団体大人 400円×7,500人 3,000,000円
	個人70歳以上 250円×500人 125,000円
	共通パスポート(販売) 1,500円×4,000人 6,000,000円
	3日間共通パスポート 700円×50人 35,000円

用 料	遊 具 使	19,400千円	アニマルコースター等 200円×81,500回	16,300,000円
			電気周遊車 100円×11,000回	1,100,000円
			ボート 400円×5,000回	2,000,000円
合計		57,060千円		